

勝山市立中学校建設基本計画

令和5年3月

勝山市教育委員会

第1章 基本計画の策定について

1 新中学校の検討経緯

これまで、新中学校建設の必要性について、様々な角度から検討を行いました。その主要事項は以下の(1)から(4)のとおりです。

(1) 生徒数・学級数の推移と見通し

令和4年度5月1日現在、生徒数は3中学校合わせて516人で、各学校の学級数は1学年2～3学級という状況にあります。さらに、10年後の令和14年度には生徒数が400人を下回る見込みで、その後は、3中学校すべての学年が1～2学級という状況となります。

(2) 学校規模と教育環境

文部科学省では、学校全体の学級数は12～18学級を標準・適正規模としており、平成19年3月の「勝山市の小中学校の望ましいあり方検討委員会」の報告書においては「中学校は1学年4学級以上の学校に統合が望ましい」という答申を受けています。

中学生は、大人へと成長していく過程の中でも、特に心身共に大きく成長し、しっかりした社会性を身に付けていくべき大事な時期にあり、適正規模の生徒数によって創出される多様な効果を享受できる教育環境を提供していくべきと考えます。

(3) 学校施設の状況

勝山市内の3中学校（勝山中部中学校、勝山南部中学校、勝山北部中学校）は、昭和40年代から60年代に建設された建物で、最も古いものは築50年を経過しています。これまで大規模改修や耐震補強等を実施していますが、全体的に老朽化が進んでおり、様々な箇所での補修の必要性が生じています。

現在の3中学校を維持するには、近い将来、建て替えまたは長寿命化の改修が必要となります。

また、近年の教育内容の進展や社会的な変化、生活様式の変化等に対応するためには、多様な学習形態や弾力的な活動を可能にするとともに、ICT環境の充実や冷暖房設備の完備など、良好な施設環境の確保が必要となっており、建物の全面的な改築が急務であると思われます。

(4) 勝山高校への併設

少子化の進行が見込まれる勝山市においては、子どもを誕生から18歳成人に至るまで市民総がかりで切れ目なく支援し、最大限の教育効果を上げる新しい教育システムを構築していくことが必要です。そのため、県内有数の規模を誇るジオアリーナや、長山公園グラウンドを教育施設としても活用することとし、新中学校の新校舎を勝山高校の敷地内に建設して、このエリアを中高生が共に学び交流する新たな文教ゾーンとして整備し、新中学校が勝山の教育の中核として、勝山高校をはじめ小学校や特別支援学校との連携を深め、予測困難と言われる令和の時代に、子どもたちに身に付けさせたい資質能力を効果的に育む教育環境を構築することが重要と考えます。

2 新中学校の学校像

勝山市では、小中学校の教職員が連携して授業改善に取組み、確かな学力の育成・深化を進めています。英語教育では、全国に先駆けて取り組んできた小学校英語を基礎として、小中高が連携した授業に取り組んでいるほか、タブレット端末を積極的に活用し「楽しく分かる授業」を実践しています。また、全小中学校がユネスコスクールに加盟し、「恐竜溪谷ふくい勝山ジオパーク」に認定されたふるさと勝山の豊かな自然・文化・歴史などを題材に、「環境教育」や「ふるさと学習」にも積極的に取り組んでいます。

令和の時代は、情報技術などの先端技術が急速に発展し、生活様式や社会が大きく変化していく予測困難な時代と言われています。この令和の時代において、学校教育には、一人一人の子どもが自分のよさや可能性を認識するとともに、多様な人々と尊重し合い、協働しながら社会の変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の担い手となる資質能力を育むことが求められています。

このような資質能力を育んでいくためには、知識や技能を身に付けるだけでは十分でなく、それらを活用して地域や社会の課題に取り組む探究的な学習や、同学年や異学年をはじめ他校種より多くの児童生徒や、企業・地域の方々など幅広い年齢層の人々と積極的に交流したり活動したりする学習を進めることが必要です。

一方で、今後も少子化が見込まれる勝山市においては、生徒数の減少に伴い学校規模が小さくなってくると、きめの細かい丁寧な教育を進めることができる反面、生徒の人間関係の固定化や、集団活動・協働的な学習の制約、部活動の選択肢の減少などの課題が生じるほか、教職員の減少に伴ってバランスのよい教員配置が難しくなったり教職員の校務負担が増加したりするなどの課題も生じ、学校全体の活力の低下が懸念されます。

(1) 目指す教育 ―新中学校を勝山の教育の中核として―

今後、子どもたちに身に付けさせたい資質能力や少子化の進行を見据え、勝山市の子どもを持続可能な社会の担い手として育んでいくため、誕生から18歳成人に至るまで市民総がかりで切れ目なく支援し、最大限の教育効果を上げる新しい教育システムを構築していくことが必要です。

このため、県内有数の規模を誇るジオアリーナや、長山公園グラウンドを教育施設としても活用することとし、新中学校の新校舎を勝山高校の敷地内に建設し、中高生がこのエリアで共に学び交流する新たな文教ゾーンを整備します。

この新中学校においては、1学級の人数は、本県独自の規準（32人）によって国の基準（40人）よりも少数で編成し、学校全体としては1学年5学級程度の適正規模でスタートします。この環境の中で、一人ひとりを大切にすきめの細かい教育を進めながら、様々な集団活動を通して互いに切磋琢磨し、豊かな情操や自己肯定感、他者への思いやり、社会性や人間関係を構築する力などを育む教育を推進していきます。

また、今後の学校教育においては、多様な人々との交流・協働による学習が重要であることから、新たな教育環境の中で、新中学校と勝山高校に連携型中高一貫教育を導入します。高校生をはじめ

地域の多くの人々と関わる教育を通して、ふるさと勝山に愛着をもち、将来の夢や目標に向かって生き生きと成長することを支援する学校づくりを推進するとともに、中学生と高校生および教職員同士の繋がりや信頼関係を深め、中学生に確かな学力を育成することを通して、勝山高校への進学者増や勝山高校のさらなる学力向上にも結び付けていきます。

さらに、中高の連携を各小学校や隣接する特別支援学校にも広げ、新中学校が今後の勝山市の教育の中核となって学校間の連携をより強化し、これまで勝山市が進めてきた教育をさらに高みへと充実・発展させて、勝山の子どもが勝山で学ぶ優位性をより一層高めていきます。

(2) 目指す学校像

○「新しい時代に生きる力を育む学校」

自ら考え、他者と協働しながら課題を解決していく主体的な学びを支援する学校

○「夢や希望の実現を支援する学校」

個性や能力を伸長し、目標に向かって自ら粘り強く挑戦することを支援する学校

○「ふるさと勝山への誇りと愛着を育む学校」

地域とつながり、豊富な体験活動を通じたふるさと勝山の学びを支援する学校

○「安全・安心で保護者や地域から信頼される学校」

互いに認め合い尊重し合って、生き生きと学校生活を送ることを支援する学校

(3) 目指す生徒像 4つのC

- | | |
|----------------------------|---------------|
| ① 何事にも自信を持って粘り強く挑戦し学び続ける生徒 | Challenge |
| ② 多様な他者と協働し主体的に考え行動する生徒 | Collaboration |
| ③ 自分と他者のよさを認め尊重し関わり合う生徒 | Communication |
| ④ 自分らしい生き方を考え将来をデザインする生徒 | Career |

(4) 連携型中高一貫教育を生かした特色ある教育内容

① 探究的な学習

中学生が地域と連携した探究学習をより充実させ、課題解決能力や論理的思考力、情報発信力などの能力を育むため、勝山高校が推進する探究学習と連携した学習を進めます。また、勝山市にキャンパスを設置する予定の福井県立大学恐竜学部(仮称)と連携し、「恐竜溪谷ふくい勝山ジオパーク」に根ざした探究学習の充実・深化を図ります。

○ふるさと勝山の自然、文化、歴史、産業、食などをテーマに探究学習を実施

・ジオパーク学習をベースに、SDGs^{※1}を踏まえたESD^{※2}教育を推進

○勝山市や地域の活動等に参画したり、中高生合同での取り組みを実施

- ・学習成果は、発表会、市長への提言、HP等により積極的に情報発信
- 地域探究センター（仮称）を設置し、地域、大学、企業等との連携活動を推進
- 中学生の学習に高校生が助言したり、中高合同の発表会等を通じて学習内容を深化
- 高校の探究学習に触れることで、視野を拡げ、探究スキルを向上

② 高校教員によるサポート授業

中学校段階の学習の理解をより定着・深化させ、学力の向上を図るため、高校の教員が中学校の授業に参加し、高校の学習に接続する指導を実施するとともに、大学進学などの目標を持つ生徒には発展的な学習を実施します。

- 中学3年次の数学と英語の授業に高校教員がチームティーチングで参加
 - ・3年生全クラスで実施
 - ・高校での学習に見通しを持ち、学習意欲が向上するよう中学校の学習内容と高校での学びを接続する指導を実施
 - ・理解度に応じて高校レベルの問題にも取り組み、授業のほか個別指導で学力を強化
- 中高の学習指導の相互理解により、中高教員の指導力をさらに向上

③ ライフデザインタイム

生徒一人ひとりが、多様な人々の生き方や考え方を通して自分のよさや可能性を認め、興味関心を広げながら自分の将来を考える機会を充実するため、各教科の時間に加え新たに「ライフデザインタイム」の時間を設定し、キャリア教育を推進します。

- 自分らしい生き方や将来の目標を考える学習を生徒が主体的に実施
- 高校や大学などを卒業した後の進路について、中学生が、高校の進路指導に触れる機会や高校生・大学生と語る会の開催などを通して学び、進路に向けた意識を向上
- 地域の方々や企業、大学などの外部人材による授業や、商・工・農・福祉・医療等の仕事を学ぶ授業、職場体験等を実施し、進路選択の視野を拡大

④ 生徒主体で進める学校行事・特別活動・部活動

体育祭や文化祭、修学旅行、生徒会活動、部活動などは、生徒の主体性や創造性を育む重要な機会であるため、高校生の主体的な活動などに触れ学び、教職員の支援のもと、生徒が自ら企画し運営する活動を推進します。

- 生徒会活動や学校行事などで、高校生の自主的な活動に触れたり、合同で実施したりすることを通して、中学生の主体性や企画力、実行力などを向上
- 高校生や地域の方々とは様々な活動で連携・交流することを通して、社会性やコミュニケーション能力を向上
- 合同練習が可能な部活動では、高校レベルに触れてスキルを向上し生徒主体の活動を実践

⑤ ICT環境の充実と効果的活用

情報技術の発展により、教育のデジタル化がさらに進展することを見据え、校内のICT^{※3}環境を充実して、タブレット端末を文具のように活用するなど生徒のデジタル活用力を高めるとともに、優れたデジタル市民になるために必要な能力を身につける「デジタル・シティズンシップ教育」を推進します。

- プロジェクターを多数設置するなど校内のICT環境を整備し、小グループでのプレゼンテーションなど中高の生徒が発表し合う機会を充実して、表現力や情報発信力を向上
- 高校と同じタイプのタブレット端末であるメリットを生かして、オンラインでの交流や活動、学習において積極的に活用し、中高連携の効果を向上
- 学習効果の高いデジタル教材を導入し、楽しく分かる授業を進め、主体的な学びを支援
- オンラインで国内外の学校・企業などの多様な人々と交流し、英語の学びや探究学習、キャリア教育等を充実

※1 SDGs (Sustainable Development Goals)

持続可能な開発目標。「誰一人取り残さない」という理念のもと世界の様々な課題を解決していく国際社会共通の目標のこと

※2 ESD (Education for Sustainable Development)

ESD教育とは、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育

※3 ICT (Information and Communication Technology)

情報通信技術と訳され、人とインターネット、人と人がつながる通信技術のこと

3 これからの学校施設の在り方

文部科学省では、「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方」として5つの姿の方向性を示しています。これからの学校施設は、新しい時代の学びを実現していくことを基本とし、それらを具体化する施設環境を創造する必要があります。

(1) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、柔軟で創造的な学習空間を実現

- 1人1台端末環境等に対応した机を配置し、多様な学習を展開できる教室環境の整備
- 個別学習や少人数学習など、柔軟に対応できる多目的スペース、学習支援、教育相談等の環境整備
- 学校図書館を核とし、コンピュータ教室と組み合わせて、ICTを活用することで、調べる、まとめる、発表するなどの学習活動を効果的・効率的に行える環境の整備
- 単一的な機能・特定の教科等に捉われず、横断的な学び、多目的な学びに対応できるよう、創造的な空間の環境整備



少人数学習等に対応する多目的スペース



読書・情報学習等の核となるメディアセンター



横断的な学びを可能とする多目的室

(2) 新しい生活様式を踏まえ、健やかな学習・生活空間を実現

- ・居場所となる温かみのあるリビング空間（小教室・コーナー、室内への木材利用）
- ・空調設備の整備、トイレの洋式化・乾式化、手洗い設備の非接触化



木質化による温かみのある学習空間

(3) 地域や社会と連携・協働し、ともに創造する共創空間の実現

- ・地域や社会、関係機関等をつなぎ、連携・協働を図ることのできる空間の整備

(4) 子どもたちの生命を守り抜く、安全・安心な教育環境を実現

- ・老朽化対策等により、安全・安心な教育環境を確保
- ・ユニバーサルデザインの採用やバリアフリー化を行い、利用者すべてに優しい環境を確保

(5) 脱炭素社会の実現に貢献する、持続可能な教育環境を実現

- ・屋根や外壁の高断熱化や高効率照明などの省エネルギー化、太陽光発電設備の導入の促進により、ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）を促進
- ・環境や地域との共生の観点から学校における木材利用（木造化、室内利用）を推進



子どもたちの安全な生活・学びの場



省エネルギー化の導入の環境教育

4 関連計画の整理

第6次勝山市総合計画をはじめ、各種計画との整合性を図ります。

